

2022 年度事業計画案

演劇の普及と演劇に関する助成によって、文化の向上に寄与することを目的として活動する本協会の助成事業（演劇関係者への助成金交付、海外研修、脚本家育成への助成）、普及事業（半額観劇会、演劇に関する講座開催）、調査事業等、公益諸事業を行っています。2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の事業が中止に追いやられましたが、2022 年度はこれら事業の安全性を担保することで更なる公益事業の充実を図っていくこととし、全ての事業に安全性を確認しながら取り組むことといたします。

I 助成事業

1. 演劇関係者への助成金交付

2022 年度も感染状況を確認しながら取り組むことといたします。この事業は演劇制作・興行の発展に寄与されたと認められた団体または個人に交付するもので、内外からの推薦を募り、外部委員を含めた選考委員会が審査、選考し候補者を決定。常務理事に報告、審議の上、会長に答申、承認となります。

（助成金は1件50万円）

2. 海外研修への助成

1989年に発足した海外研修は、研修者が欧米の演劇と文化に直接肌に触れることで大きな実績となると考えております。海外演劇、特にミュージカル公演は盛況であり、本場のニューヨーク、ロンドンの舞台を研究したいという要望は強く、これまでの延べ参加人員は2020年3月末で551名に達しています。2020年度2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、本事業の執行を取りやめていましたが、2022年度は国外、国内の状況を勘案し安全性が確認出来れば事業の再開を目指すことといたします。

3. 脚本家育成への助成（脚本募集及び脚本家養成講座）

演劇の基盤を広げるためには優秀な脚本が求められます。演劇の脚本は一朝一夕に生まれるものではなく、長期的な養成が必要と考えられます。

2018年度後半より告知を開始しました当協会主催「第八回脚本募集」事業におきまして、本来2020年度に作品審査を行い、受賞作を決定する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、2020年度の審査をとりやめ、2021年度に作品審査を行い、昨年12月に入選作品を決定しました。2022年度は表彰の年に当たり6月の理事会にて授賞式を執り行う予定です。尚今回の応募総数は132作品の内、優秀作品1作品、佳作5作品となりました。

次に2013年度より「初級コース」「中級コース」「マスターコース」の3コースでスタートしました「脚本家養成講座」ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為緊急事態宣言発出の為2020年度から休講が続き2021年度は受講料の繰り越しを行いましたが、2022年度は、先ほど決議いただきました通り精算された形で新たにスタートをいたします。

II 普及事業

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団、公益財団法人都民劇場、独立行政法人日本芸術文化振興会・国立文楽劇場、大阪府、公益財団法人名古屋市文化振興事業団と本協会とが共催している半額観劇会は、低廉な価格で質の高い舞台芸術を鑑賞する機会を提供する事業として、都民、府民、市民から幅広く支持され、演劇人口の裾野を広げております。2022年度も加盟劇場と各自治体の関係各署と確認を取りながら安全性を担保した上で事業を執り行って参ります。

また、加盟劇場を活用した演劇教室も2022年度は各劇場と連絡を密に取りながら事業を取り組み、若年層を中心とした演劇人口の拡大に努めて参ります。

III 会報の発行

協会の事業及び情報の周知を図るために会報を年2回（7月・12月）発行し、会員、賛助会員、所轄官庁、関係団体、マスコミ関係に配布いたします。

IV 調査事業

わが国の演劇関係の参考資料として、海外の演劇興行の実情を調査、研究し報告書を作成する。2020年度は新型コロナウイルスの影響で取り組みを中止したが、2021年度は2020年度分、2021年度分の両方を揃え、演劇関係の参考資料として有効利用できるよう取り組んで参ります。

- ① 「ロンドン劇場協会発行のボックスオフィス報告書」の翻訳。
- ② 「ライブ・エンターテインメント市場調査報告書」の作成協力

以 上